



森のなかま

2009年 2月号

NO. 10 (継続155)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

水源林パートナーさんをご紹介します。

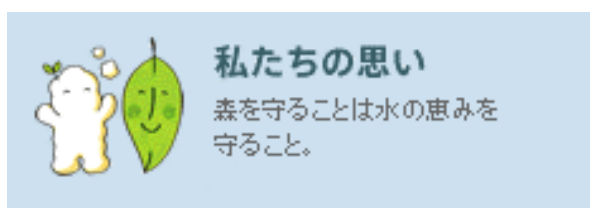
森を守ることは水の恵みを守ること。

おいしさを笑顔に
KIRIN キリンビール

キリングroupでは、製品の重要な原料でもあり、私たちの生活に欠かせない水資源を守るために、「キリン水源の森づくり」活動として、1999年より全国のビール工場およびグループ会社の水源地、計13か所で、植林をはじめとした森林保全活動を行なってきました。同時に私たちは、「水の恵みを守る活動」として、当社の工場の水源を守る活動から、日本全国の貴重な水資源を守る活動に枠組みを広げて、展開を始めています。

キリンビールは神奈川県が推進する「かながわ水源の^もり森林づくり」事業に参加した第一号の水源地林パートナーとして1999年より参加協力を行っています。

横浜工場は、1999年4月に横浜工場の水源地である丹沢地区約1.35haにヒノキ、ブナ、ケヤキなど約3,100本の植樹を社員及び地元の方と実施し、2008年までに1,000名以上の社員、家族、協力会社等参加者により1万5000本以上の植樹等を実施し「かながわ水源の^もり森林づくり」活動を行なっています。



(左) 植樹風景

(上) 下草刈りで汗を流しています。



インストラクターの説明に真剣な眼差し



間伐、枝打ち、残りは玉切りだー！



やったぞー！
達成感に笑顔が
いっぱい。
インストラク
ターを囲んで「ハイ
チーズ」

【100年後の水をまもるために】

キリンの水源の森づくり活動は、各地工場の水源地で植林などの森林保全を行い、水の恵みを守る手助けを行い、100年後の水を守るために、キリンは森づくりを続けていきます。50年後も100年後も良質な製品をつくり続けるために、私たちの生活に欠かせない水資源を守るために、日本各地での地域の皆様とご一緒に森林保全活動を続けて土地ごとに合った木を植え手入れをして、森づくりを進めています。

私の認識

野鳥その63

高橋 恒通

ツル目クイナ科の“〇〇クイナ”と呼ばれる野鳥の中で、私が未だ観た事の無いのを今回はご紹介致しますよう。

その筆頭は留鳥のヤンバルクイナ（漢和名：山原秧鶏又は山原水鶏、英名：Okinawa Rail、直訳すると“沖縄のクイナ類”）です。

体長L=35cm、♂♀同色、体色は額から背面はオリーブ褐色、顔は黒色で目の下側から後頸に伸びる白線がポイントです。胸前から下尾筒にかけて黒白の横斑模様、嘴は太く先が鋭く尖り、先端が黄白色、その他は紅赤色、肉赤色をした丈夫そうな脚と長い指、尾羽は短くやや上向きである。

翼は退化して飛翔能力は低いそうですが、夜は樹上で寝る事が確認されているので短い距離は飛べる様です。

生態的には不明な点が多い野鳥ですが、昼は繁った暗い森林の地上を歩き、昆虫などや植物の実を採食するそうです。

ヤンバルクイナ



ヤンバルクイナは、

ご承知の通り1981年に沖縄本島北部の山地で発見され、特産種として国の特別天然記念物に指定されています。

世界的に見ても貴重な此の野鳥は今、外来種のマングース（ジャコウネコ科）の餌食となって絶滅の危機に瀕していると認識しています。

金儲主義の観光業者がハブと戦わせる見世物として仕入れ、倒産し野に放ったものの他、自治体がハブ退治の為に放野したものがハブを獲らずに襲い易いヤンバルクイナを捕食するので、上記の如き状況になったものと言われてます。マングースはジャワマングースが殆どですが、いずれにせよ此の様な外来生物の輸入を許可している日本の通産や環境行政の愚かさ加減には呆れてます。

因みにマングースは空腹でも好んで毒蛇を捕食したりしないと言われてます。その理由は、毒蛇に咬まれれば死に至る為で、巷間に言われている“毒への耐性”は決して強くないそうです。

沖縄本島ではヤンバルクイナ、そして奄美大島ではアマミノクロウサギが、マングースにやられているのは事実です。沖縄県では平成になってマングース駆除に動いてますが、完全な駆除は望めないと私は認識しています。

次は留鳥のオオクイナ（漢和名：大秧鶏、英名：Banded Crake）体長L=26cm、♂♀同色についてご案内します。体色は頭から背面は暗褐色、喉下に白斑、胸はレンガ色、腹から下尾筒までは黒地に白い横縞で黒い脚です。

我国では南西諸島の薄暗い林内で、昆虫や、ミミズやカタツムリを採食するそうです。警戒心が強く少しの物音でも繁みに隠れるほど用心深いそうです。

繁殖期の夜間「プアプア」と2声をゆっくりと繰り返して10分位発し続けるそうです。

オオクイナ



三番目が南西諸島では留鳥のツルクイナ（漢和名：鶴秧鶏、英名：Water Crake）、体長L=40センチをご紹介いたします。

♂の夏羽の色は全体が黒褐色、バンの如き赤色の額板、そして黄色の嘴があります。♀は額板が無く体色も背面は黄褐色に黒い縦斑、喉下から下面は淡黄褐色です。棲息は湿地、池、水田、河川そして草地にも出没するそうですが、警戒心が強く姿を見る機会は少ないとの事です。昆虫類や甲殻類の他に植物質も食するそうです。九州や本州南部で夏季に見られる事もあるそうです。

ツルクイナ



<参考資料>

- ・日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7
写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説（鳴声）/上田秀雄
山と溪谷社
- ・フィールドガイド 日本の野鳥、野鳥ブックス
高野伸二著、(財)日本野鳥の会
- ・写真：沖縄県立博物館・野鳥手帳より

やどりきの暮らし今昔＜第3話＞―寄の方々との交流会― 森林文化部会

元郵便局長の大館敏雄さんは現在「プロジェクトやどりき」の事務局長をなさっていますので、「プロジェクトやどりき」を紹介された内容を記載します。

西丹沢の山麓に囲まれた盆地にある「寄」は1980年代まで人口が増加していましたが、1990年代に入ると人口が減少に転じ始めました。又住民の高齢化が進み、耕作放棄地が増え、かつての活気が無くなり始めました。こうした状況を打破し、寄地域の再生を住民自らの力で実現するため、既存の組織を横断する「プロジェクトやどりき」を2005年発足させました。この目的を達成させるための事業として、以下3つあります。

- ①地域の将来についてのグランドデザインを描き、それに沿った計画づくりを行う事業です。これを町づくり計画ワークショップ、環境・暮らし教育ワークショップ等で進めています。
- ②寄の良さ、個性を知るため、子供を対象にした「寄探検隊」、そして大人を対象に「やどりきふるさと大学」等の事業を行っています。
- ③環境のよさを維持しつつ、経済的な発展を図るための事業です。寄が自然休養村にも指定されていることも踏まえ、寄に来てもらい、寄のよさを総合的に知ってもらうために「寄体験」を行っています。又農業の維持、耕作放棄地の解消を実現するために、寄の暮らし向上と結びつけた「土曜市」、「藍で染めよう」、「鳥獣被害対策シンポジウム」等を実施しています。



○大館敏雄さん (第2テーブル)

山菜を楽しむ

その11

海の幸 ワカメ (山菜?)

(A) 有田保彰

ウシはワラビを食べないと聞いていましたが、そう言えば、牧場にワラビが群生しているのを見たことがあります。

生きものはすべて、それが食べられるものかどうか、本能的に良く知っているのでしょう。人間も、太古の昔は、ちゃんと知っていたのですが、今や見分ける必要がなくなり、長い間受け継いできた能力を失ってしまいました。

びっくりするほど身近に、猛毒のものもあるので、考えてみれば、山菜採りも怖い話です。

食うか食われるかという動物たちの世界では、弱いものたちは、毒を持つとか、見つからないように形や色を変えるなど、生き延びるための手段を講じます。植物も、刺で防御するなどの工夫をすることもあります。大抵の場合は、相手が嫌がる成分で対抗します。例えばヒノキ、エゴノキ、クスノキは、それぞれヒノキオール、サポニン、カンフルという毒性の物質を持っているそうです。

秋に赤くなる実には有毒のものが多いとか、竹や笹の類いや海藻、海草には毒のものがないなどと耳にしますが、本当のところどうなのでしょう。

海藻といえば、2月は私たちにとっては待ち遠しい月です。春隣という冬の季語のように、どこかに春を感じる期待感がありますし（北国では全然違うでしょうが）ワカメの季節だからです。

秋口なら、強い風が吹くと、あ、ギンナンが落ちる、と思いますが、2月は、あ、ワカメが寄るな、と気になります。

強い風が吹いた翌朝は打ち上げられたものを拾いに浜に出かけます。胴長をはいて、先端に針金で返しをつけた長い竹竿を持って、という出立ちこそしませんが、寄せる波に多少濡れるくらいのことは厭いません。

掴んだ石をしっかりと握ったままの根っこをつけたワカメを丸ごと拾い、砂をざっと洗って、ぶら下げてくるときは、とても良い気分です。

メカブと呼ぶ根元部分を切り離し、いわゆるワカメの部分を天日に干します。パリッパリに乾燥したものをそのまま一欠け嚙むと、途端に潮の香が口いっぱいに広がります。海苔よりもごっつい舌触りも、なかなか乙なものです。

あとは普通に味噌汁などに利用するのですが、自分で拾ったからでしょうか、買ったものより磯の香が良いように思えます。

メカブの茎はある程度薄く小口切りにして、酒、味醂か砂糖、醤油で煮ます。アクは取ったほうが無難です。この時期になくてはならない酒のサカナです。

茎の両側についているビラビラ（この部分はなんというのか判らないので、勝手にビラビラと呼んでます）は、茎から切り離しできるだけ細く（極細千切りというか細糸切りというか）切ります。

包丁でこのように切るのは至難の業だと思いますが、この方法だからこそ、十分に細くまたある程度長く切れるのです。カッターで刻んだものは、みじん風に切れてしまうし、切り口の角が口にトゲトゲ当って良くありません。

次に、これをザルに広げて、熱湯をざーっとかけます。濃褐色のものが、マジックのように一瞬にして鮮緑色になります。これを、お気に入りのぐい飲みなどで出してはどうでしょう。

一般的には、わさび醤油を使うのですが、私は断然味噌味に軍配をあげます。味噌を少し練り込み、一気にズルズル、ネバネバと味わいます。その食感に磯の香と塩気と味噌の甘さがあいまって...！それを追いかける辛口の酒！まさに至福の10秒間.....。

お酒無しでこれを食べるなんてことをしたら、神様におおいに叱られてしまいます。

(つづく)



..画 有田保彰

活動短信

11/14～12/13

熊野古道を歩く3日間の旅

日 11月17日(月)～19日(水)

場 和歌山県熊野古道

参 ⑦期・愛木、伊藤、岩田、塩谷、武本、松田、武者、渡部、

七樹会では有志による旅行で、白神山地、屋久島の旅を行ってきましたが、今回は世界自然遺産「熊野古道を歩く3日間の旅」を実施しました。

熊野古道には5ルートありそれぞれ特色がありますが、山深い自然の美しさを最も残している中辺路(かへち)ルートを歩き「熊野三山」(本宮大社、速玉大社、那智大社)を巡りました。

最初の「滝尻王子」では、熊野ボランティアが1号水本さんの名調子に感動しながら旅は始まりました。杉、檜の美林の中を平安時代の貴族も歩いた石畳や狭い山道をひたすら歩き続けましたが、初日最後には90分に1本しかないバスに乗り遅れるハプニングもありました。森林インストラクターの旅は歩きながら、樹木・草花を観察するためガイドブックに載っている所要時間をいつもオーバーして行程通り進まない難点がありました。参加者の行いが良かったためか3日間とも好天気恵まれ「熊野三山」を巡り「オガタマノキ」の大木や「ナギ」の街路樹など珍しい樹木などを見ることができ、実り多い3日間の研修旅行でした。(記 7期 渡部)

森林作業・自然観察・木工

日 11月29日(土) 10時～12時

場 やどりき水源林

参 80名(大人70名・子供10名)

県 金田

イ L山崎⑦、戸谷⑥、伊藤⑦、飯澤⑨、中島⑨、プログラム別参加者・間伐30名・自然観察20名・木工細工30名

今回実施回数8回目、参加者80名は最多とのこと。年々この行事への関心が高まりつつあると言う役員の方からご挨拶がありました。新日本石油パートナープレートの前で写真撮影後、プログラム別の3班に分かれました。担当を事前に連絡して、その準備と心構えがしっかり出来ていたのでスムーズに対応する事が出来ました。

(記 7期 山崎)

間伐体験と間伐材を使ったベンチ作り

日 11月29日(土) 10時20分～13時半 晴れ

場 やどりき水源林「日立電子サービス」パートナー林

参 23名(子供5名含む)

県 金田、他2名、

イ 鈴木(松)⑤、浦野⑧、

バス利用者がいたため集合が若干遅れたが、間伐の概略説明の後2班に別れて作業開始。それぞれ3～4本伐倒、こどもたちも喜んで参加した。掛り木になったものは皆の力で処理。その後伐倒木を利用したベンチを作る。1週間前と同一内容の企画であり既設のベンチを手本としながらも、もう少し工夫などしながら完成。家族連れの方も安全に、安全にと気をつけ無事終了、鈴木さんともども参加者の協力に感謝の1日でした。

(記 8期 浦野)

鶴岡八幡宮『槐の会』第2回森林活動

日 11月30日(木) 10時25分～14時半

場 やどりき水源林

参 111名(会員; 大人100名、子供3名)
スタッフ・8名

県 金田、小司

イ L松山⑩、島岡③、渡辺③、宮本④、相馬⑤、久保⑧、黒沢⑧、野田⑧、松本⑧、中島⑨

活動内容は参加者全員で『森林作業と自然観察のセット』。狭いエリアでの全員作業は危険を伴うため2組に分け、午前作業の間伐班、午後作業の植栽班・階段作り班の編成。午前の観察組は、穏やかな快晴の河原で紅葉狩り、松本さんの発声で『もみじ』を合唱。一方の間伐班は径25cm以上を4本伐倒、玉切り処理、昼食を挟み自然観察へ。午後作業の組は、階段作りと広葉樹40本の植栽を早々と片付けた。時間が余り、グループ毎に巨木林内や周辺を案内して好評を博した。参加者は、観察や作業にまじめで熱心な方ばかり、作業経験者も数名おられ歩いた。朝10分遅れの始動だが、14時半頃には無事終了。参加者は笑顔で帰途に着いた。快晴、無事故・達成感、皆さんのご協力に感謝!

(記 10期 松山)

(株) 横浜トヨペット労働組合<間伐体験>

日 12月2日(火) 晴れ 10時～12時半

場 やどりき水源林

参 10名

県 森林課・金田・小司

イ 伊藤⑦

当労働組合は今年2月に水源林パートナーになり、活発な整備作業体験を重ね今回で3回目の活動となる。道具の保管倉庫前でヘルメットを着け、簡単なストレッチ体操。道具を腰に付け現場に向かう。作業場所は急傾斜のパートナー林内で全員が初めての間伐体験。間伐の基本及び危険回避のミーティングの後、間伐作業に入る。1本目は細い木に挑戦したが掛り木となり苦労の末の処理。2本目は、やや太い木でしたが“ばっさり”とうまく倒れウオッ!と感動の声。枝落とし、玉切りを終え下山。

気温は9度と低かったが、風もなく間伐作業には良い天気になり参加の皆さんは「また来ます」と満足の表情でした。(記 7期 伊藤)

森林循環フェア2008〜くらしに活かす木の優しさ

日 11月14日(金)〜16日(日)10時〜17時
場 ららぽーと横浜
県 神奈川県環境農政部森林課内、「森林循環フェア実行委員会」
イ L高橋③、斉藤⑥、須長⑥、大道⑥、中元⑩、時田⑩、

「木を使うことで森林を守るという、森林循環の意味を県民にご理解いただく為のフェアでの竹筒を利用したハイテク万華鏡づくり。」

会場のららぽーと横浜は、欧米型の巨大なショッピングモールの建物の中なので、「木工工作するにも鋸屑や鉋屑などを出しては駄目」と言う制約条件付きの為に、竹筒とホログラムシートを使った「ハイテク万華鏡」作りで対応した。430本用意した竹筒が104本残ったので、3日間で326本の万華鏡が作られました。来客は、子供連れの若い母親が大半でした。

15日の土曜には松沢知事も視察で私達のコーナーに来られ、工作中的の母子に声をかけられ、そして見本の万華鏡を覗かれ、“虹の色が綺麗だね”と感心されたとの事です。人種、老若男女を問わず、“虹を見て腹を立てる人間はいませんヨ”と“世界に1本しか無いモノが出来ますヨ”と言うのが、此の万華鏡に対する私のキャッチフレーズです。

鋏やカッターナイフ、そして千枚通し等を使って来客に作って貰う為の指導を私達が行った訳ですが、3日間とも怪我や事故も無く終始できたのは何よりでした。

自作品を使って光を見て、殆どの人が“スゴイッ”とか“ワァーキレイダーッ”と発声されて満足されて居り、この企画が良かったと思ってます。終りにこの3日間連チャンで携わられた斎藤さんには本当にお疲れ様でした。(記 3期 高橋)

久田緑地で体験講座

日 12月6日(土)晴れ
場 大和市・「久田緑地」
財 かながわトラストみどり財団・高橋・壺崎・渡辺③、吉山③、

大和市上和田地区に残る、境川に沿って南北に延びる面積約10haを「久田緑地」として財団が約20年前から所有者と保存契約をして地域住民の憩いの場として保全管理をしています。その中の南側の竹林(約30m×20m、孟宗竹)の整備を午前中。午後は間伐した孟宗竹を使つての竹細工作りでした。尚参加者23人中の7人は、この緑地を日ごろから維持管理されている地元のボランティアの方達「久田緑地クラブ」でした。

午前中は作業を始める前に間伐の安全上の注意事項を話し作業にかかった。間隔、3年以上の竹等を選んで合計50本近くは間伐されたと思います。玉切の長さは、間伐材を竹炭にされるのでその釜のサイズ(30cmの倍数)の関係で約120cm程とのこと。直径約20cm以上程の立派な竹もあり作業の後は、大分竹林の中が明るくなった。午後は、竹を使用しての竹細工(渡辺さんが、竹細工のサンプル;花器、箸、)竹トンボ等準備)で、財団が準備された道具を使用して、全員マイ箸、花器等を製作した。

帰りに、クラブが使用している竹炭の釜を見学して、全項目を無事に終了。帰りの土産の量が多くて皆さん満足でした。(記 3期 吉山)

「里山ボランティア育成講座第二回」

日 12月13日(土)
場 麻生区市民健康の森
参 一般市民 36名
スタッフ 川崎市公園緑地協会他 10数名
イ 大塚①、松崎⑤、伊藤⑦、井口⑧、久保⑧、清水⑧、川崎市公園緑地協会が実施する「里山ボランティア育成講座」シリーズの第二回目。今回は小田急線・読売ランド前駅から北に20分ほど入った麻生区市民健康の森で行われた。午前中、参加者を4班に分け、インストラクターが一人ずつ付き、コナラ、ミズキ、キハダ、アカシデ、エゴノキなど、広葉落葉樹十数本の間伐を行った。中には直径20cmを超える木もあり、参加者は汗だくになりながら取り組んでいた。午後は樹木観察の後ゲームとして樹木の名前当てテストが行われ、全員に「樹木博士?」の認定書が渡された。このゲームにはインストラクターも参加し、正解するのに結構苦労していたようだ。(記 5期 松崎)

森林作業・自然観察・木工

日 11月29日(土)10時〜12時
場 やどりき水源林
参 80名(大人70名・子供10名)
県 金田
イ L山崎⑦、戸谷⑥、伊藤⑦、飯澤⑨、中島⑨、プログラム別参加者・間伐30名・自然観察20名・木工細工30名

今回実施回数8回目、参加者80名は最多とのこと。年々この行事への関心が高まりつつあると言う役員の方からご挨拶がありました。新日本石油パートナープレートの前で写真撮影後、プログラム別の3班に分かれました。担当を事前に連絡して、その準備と心構えがしっかり出来ていたのでスムーズに対応する事が出来ました。(記 7期 山崎)

自然ゆたかな森林の散策ツアー

日 11月29日(土)9時〜14時
場 表丹沢野外活動センター周辺
参 15名(内 女性2名)
秦野市役所森林づくり課・草山課長補佐、久保田主任
イ 大塚①、於て北公民館会議室、主催主旨説明と自己紹介後、人と森林のかかわり、紅葉のしくみについて、35分静聴をいただき、質疑応答後同館出発集落をぬって葛葉の泉まで散策途中民家の堀越しに実に見事な枝ぶりの一本のリンゴの木を発見品種はふじ産地外の地でも環境に適応丹精こめて育成すれば結実は鈴生り味もまた格別などと想像しつつ歩を進め葛葉の泉に到着、休息ミネラル豊富な湧水を味わいながら湧水の所以について解説森林の精気をあびて歩を進め野外活動センターまで散策12時20分現地到着、センター祭りに合流緑基金に賛同心ばかりの浄財をして、おしるこ、焼き芋等々堪能周辺施設を見学13時20分出発菩提の茶畑をぬけ旧役場跡に見事ないちの木に出会う葉実に美事な黄色しばし癒される思であった。14時30分北公民館に到着、少人数ではあったが実に楽しく自然に学ぶ育森ボランティアに参加を約して解散。(記 1期 大塚)

やどりき水源林
ミニガイド

1月のトピックス

17日やどりき水源林・山の神
祠前で「山神祭」がおごそかに執
り行なわれました。



2月の水源林

ミツマタ開花まじか・・・。
お札の原料になる木です。



「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土曜・日曜・祝日午
後1時より1～2時間程度（冬季休
止）

●集 合：水源林入口ゲート前

●内 容：森林インストラクターが自然観
察にご案内します。森林のしくみ・
手入れなどについて説明いたします。
参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記まで
ご連絡ください。

●問合せ：(社) かながわ森林づくり
公社 県民運動課 Tel 0465-85-1900

●ホームページ：

<http://www.ny.airnet.ne.jp/k.smrin/>

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅またはJR 御殿場線
松田駅下車、富士急湘南バス「寄（や
どりき）」行き乗車約25分。バス下車
後（案内板あり）川沿いに徒歩35分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

JISE 市民環境フォーラム開催の
お知らせ

日時：2月8日（日）13時～16時30分

開催場所：パシフィコ横浜国際会議場小
ホール（5階）

参加費は無料ですが、事前登録が必要。
13時30分～

講師には、畠山重篤（牡蠣の森を慕う会
代表）宮脇 昭（JISE・国際
生態センター長）

15時15分～パネル討論

申し込み先：045-322-1223：FAX045-
322-1225/mail:ecoinfom@iise.in

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集してい
ます。写真、スケッチなども募集しており
ます。

送り先

<①手書き原稿送り先>

森 義徳

〒232-0053

横浜市内南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784 Fax/<株リコー・森宛
045-590-1910>

<②メール原稿送り先>

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市内緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax：045-476-4112

Mail：murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 厳

〒227-0038

横浜市内青葉区奈良2丁目10-5

Tel/Fax：045-961-6695

Mail：i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194-0001

東京都町田市つくし野2-13-7

Tel/Fax：042-796-6011

Mail：morimoto@bikkuri.co.jp

原稿の締切は毎月20日です。

編集後記

★モバイルパソコンを購入し、事業用
の独自ドメインも取得しました。今
後は活動をより加速させてゆきます
E-mail:

i_kanamori@morinotabibito.com

Homepage: <http://www.morinotabibito.com>

(金森)

★寒冷毎日が地球温暖化は進む。
最近、地球は寒冷化、即ち、氷河期
に向かっている説を唱える学者が増
えてる。といっても数万年単位の変
化だそうだ。我々の時代には無関係、
やはり地道に自然保護に進もう。

(鈴木)

★米国では、オバマ新大統領就任。
卓越した演説は定評あり。というこ
とは、この演説集、私もインスト
のプリゼンにも、応用出来るかもし
れませんね。(森本)

★なかなか雪にならないこの冬は、や
っぱり暖冬でしょうか？インフルエ
ンザもはやっています。皆さんお身
体お大事にお過ごしください。(森)

★新田次郎の「剣岳（点の記）」を読
んでいます。若い頃、何度も足を運
んだ頃の思い出がよみがえります。
映画化されて、6月にロードショー公
開されるそうです。(井出)

★暮に知る人ぞ知る、ヘルシー料理
の町田「柿島屋」へ通いつめたら、
鬼の攪乱？すっかり風邪をひいてし
まいました。これ、もしかして新種
の馬インフルエンザ？(村井)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、
郵便局備付けの郵便振替を利用してお申
し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購
読料年2000円をお振込みください。
振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記
してください。

振替用紙到着の翌月号から12回／1年
間お届け致します。

(領 価 200円 送料共)

編集人：森本正信

広報部：井出恒夫、鈴木松弘、

村井正孝、金森 厳

森 義徳

ヤマケイ・カルチャークラブ

●山岳ライター石丸哲也氏同行

「花の遠足」その時期ならではの花と軽ハイキングを楽しむバスツアーをご紹介します。

養山 日帰り	真教寺尾根（下部） 日帰り	箕郷丘陵 日帰り
出発日：2/19(木)～ ￥11,000 横浜駅西口天理ビル前7:30集合	出発日：2/28(土)～ ￥12,000 新宿駅西口スバルビル前7:30集合	出発日：3/19(木)～ ￥11,000 新宿駅西口スバルビル前7:30集合

ご不明な点がございましたら、下記まで気楽にお問合せください。

アルパインツアーズ株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル

Tel:03(3503)1911 info@alpine-tour.com

<http://www.alpine-tour.com>

身近な日本の山旅から世界
各地の山岳リゾートや辺境
の地までアルパインツア
ーは自然を愛する方々を地球
のデコボコへご案内します。
次の山旅アルパインツア
ーで出かけてみませんか。